

## 演題名

上部消化管内視鏡における咽頭麻酔法の工夫～患者の苦痛軽減に向けた取り組み～

## 演者

○若林幸子 竹尾芳子 池永由美子 猪又浩美 田代緑 小森由紀 小松ひとみ  
脇恵理子 工藤由美 中村志津子 小出好子  
医師 相馬渉 阿部寿徳 有田毅

所属機関 医療法人八宏会 有田胃腸病院

## はじめに

従来より咽頭麻酔には、ビスカス法とスプレー法があるが、いまだに全く苦痛のない咽頭麻酔法はない。前者は、喉の奥に停滞できない・粘稠感が苦手・効果にバラツキがある等の意見があり、また後者では、匂い・苦味・刺激が嫌だといわれることが散見される。よって、より苦痛の少ない咽頭麻酔法の開発が望まれる。そこで我々は従来の咽頭麻酔法を改良し、sedation を併用したスプレー法を試行してみた。

## 目的

咽頭麻酔の苦痛緩和を図ることを目的として、sedation を併用したスプレー法の効果について従来法と比較検討する。

## 対象・方法

対象は、当院において過去にビスカス法やスプレー法のどちらか又は両者を経験し、本研究に同意を得た患者 203 名。男性 125 名、女性 78 名、26 歳～86 歳、平均年齢は 57.5 歳。方法は、検査体位の左側臥位にて、反応を確認しながら鎮静剤を少量ずつ注射後、鎮静効果がみられ始めた時点で塩酸リドカイン 8%ポンプスプレーを 5 回噴霧し嚥下を促す。その後、鎮静剤を指示量まで投与し検査施行。十分に覚醒後、以前の咽頭麻酔法と比較して、本方法の評価についてアンケート調査を実施した。

## 結果・考察

以前の咽頭麻酔法は、楽だった 44.3% (90/203) に対して、今回我々の行った咽頭麻酔法は、楽だった 72.9% (148/203) との評価を得た。これは sedation により、咽頭麻酔独特の匂いや苦味による不快感が緩和され、苦痛の軽減につながったのではないかと考える。なお、sedation による誤嚥症状はみられなかった。また、次回は以前の方法を希望 6.4% (13/203) に対して、sedation 併用スプレー法を希望 71.9%(146/203)であり、患者の満足度が高い咽頭麻酔法であると考えられた。今後、更なる症例の集積が望まれる。

## 結語

今回紹介した sedation 併用スプレー法を、患者の苦痛軽減に有用な咽頭麻酔法の一つとして提案する。

現在、試験進行中であり発表では症例数を増やし報告したい。

[ 連絡先 ; 870-0924 大分市牧 1-2-6 097-556-1772 ]